

中学校社会科における思考力の向上を目指した授業作り

学籍番号 249301

氏 名 青木佑樹

主指導教員 串田秀也

副指導教員 飯島敏文

1. 目的と背景

新しい時代の教育が育成すべき能力として「21 世紀型能力」が提唱されており、それは実践力、思考力、基礎力の 3 つの観点で構成されている。私はこのうち、とくに思考力を育てる授業実践について、学校実習を通じて学びたいと考えた。本報告では、社会科において思考力を高めるために試みた授業実践の内容、それに対する生徒の反応、授業実践の効果を調べるために行ったアンケートの結果などを報告し、それらの実践から私が学んだことを述べていく。

2. 先行研究

先行研究として、小学校と中学校の社会科において思考力を高める授業実践を検討した研究を参照した。そこから、思考力を育てるために重要な工夫として、とくに次の点を学んだ。第一は、比較させることである。似ているけれど事情が少し異なる比較対象を設定することが、効果的に思考を促すために重要である。第二は、段階的に思考を導くことである。考えるための資料を何度かに分けて提示したり、他の生徒と意見交流する場を設けたりすることで、生徒たちは一歩ずつ考えを進めたり、多角的に考えたりすることができるようになる。

3. 基本学校実習を通じた課題研究

基本学校実習では、指導教員たちの授業観察を通じて社会科で思考力を育てる工夫を学び取るとともに、1 つの授業実践を行った。まず、授業観察を通じて、主に 3 つのことを学んだ。第一は、生徒の不規則発言を授業に取り入れることの重要性である。不規則発言を授業で取り入れることで、生徒に興味を持たせることができる。第二は、生徒に考えさせるには、まず考えるための知識を与えることが重要だということである。知識を元に考えないと思考力を向上させることはできず、単に自分の意見を出しているだけになってしまう。第三は、ストーリー性を持たせて説明することの重要性である。学習内容の背景をしっかりと説明することで生徒はより深く理解することができる。

授業実践では、ヨーロッパの自然環境の授業で、ロンドンは高緯度なのに寒さが厳しくないのはなぜかという問いを発し、生徒たちに偏西風の影響について考えさせようと試みた。ロン

ドンと札幌の緯度を地図で確かめさせたり、ブライトンと釧路の水温図を比較させたりしたが、考えることのできている生徒はあまり多くなかった。考えるための前提となる知識の伝え方や、考えることを促すヒントの与え方がまだまだ不十分だという反省点が残った。

4. 発展学校実習を通じた課題研究

発展学校実習前期の授業では、地中海性気候の地域と温暖湿潤気候の地域とで、ぶどうを育てる高さに違いがあるのはなぜかを生徒に考えさせた。2つの地域のぶどうの写真を見せて疑問を持たせるとともに、事前に地中海性気候の特徴を説明して考えるための知識を与えた。だが、ぶどうを育てる高さを気候と結びつけて考えている生徒は少なかった。生徒が両者を結びつけて考えられるようなヒントをもっと出すことで、思考力を高めることができたのではないかと反省した。

後期の授業では、ヨーロッパの国々が統合したのはなぜかと EU が統合するメリットは何かを考えさせた。考えるための素材として、EU・アメリカ・中国・日本の経済などを比較した資料を与えた。また、資料から EU は貿易額が多いことに注目させ、その理由を生徒に尋ねて、考えを促した。さらに、EU 加盟国間でできることを確認した後に、EU の国々が結びつくメリットを考えてもらった。生徒はさまざまな意見をワークシートに書いていたが、資料とは無関係に自分の感想を書いている生徒も少なくなかった。資料をどのように活用するかをしっかりと伝える必要があるという反省点が残された。

これらの思考力を高める授業実践にどの程度の効果があったのかを調べるために、前期の授業前と後期の授業後に同じアンケートを行った。その結果、考える活動が好きになった生徒が嫌いになった生徒のおよそ2倍いた。また、考える能力の自己評価が上がった生徒は下がった生徒のおよそ2倍だった。これらの結果は、授業実践に一定の効果があつたことを示唆していると言えるかもしれない。だが、ほぼ半数の生徒は回答が変わっておらず、考える活動が嫌いになった生徒や自己評価が下がった生徒も一定数いた。好きになった生徒は、社会が好きで、自分の考えを持つことができたり、自分の意見を発表できたりする生徒が多かった。一方、嫌いになった生徒は社会に苦手意識を持っており、自分で考えることが得意ではない生徒が多かった。これらの結果から、考える活動が得意ではない生徒にこそしっかり考えてもらう工夫をしないとイケないが、それがまだまだ不十分であつたと思われる。

5. 結論

授業実践を通して、思考力を育てる授業をするために必要ないくつかのポイントを学んだが、その難しさも体験した。思考力を育てるためには、考えるための前提となる知識を生徒に十分に与えるとともに、その知識をどのように活用すれば考えることができるのかのヒントを段階的に与えて、一歩ずつ考えることを促していくことが重要である。また、これらの工夫を通じて、生徒に疑問を持たせ、考えることの楽しさを感じさせることが重要である。今後これらのことに取り組んでいき、生徒が楽しく考えることができる活動を行っていきたいと思う。